



の が き 野垣あきこと まちづくりカフェ

HP はコチラ



2025年11月19日 No.236

連絡先 090-9293-8710 ご相談どうぞ！

地域の力で災害に備える

地域の震災救援所の立ち上げ訓練に参加しました

杉並区防災マップ(地震編)より抜粋



救援所の立ち上げと受付
最初は体育館(アリーナ)に集まり、救援所を立ち上げる際の初動や運営体制などの説明を受けました。今後、近隣の旧若杉小や

区内には小中学校など65カ所の震災救援所があります。

活しながら、震災救援所で物資を受け取ることができます。

区内には小中学校など65カ所の震災救援所があります。

活しながら、震災救援所で物資を受け取ることができます。

定期的な訓練への参加で地域の防災意識の向上を！
11月16日、天沼小学校で行われた、震災救援所の立ち上げ訓練に、天沼や上荻の住民のみなさんと一緒に参加してきました。

震災救援所とは？

震災救援所とは、震度5強以上の地震が発生した際、家が焼けた

り、倒壊したりして、自宅にいられなくなった住民が避難したり、

救援活動を実施する拠点です。

震災救援所で在宅避難者登録(受付)を行うことで、自宅で生

活しながら、震災救援所で物資を受け取ることができます。

その時に各々がやれることを

AED(心臓が突然止まってしまった人に、電気ショックを与えて心臓の動きを戻すための医療機器)を使い、心臓マッサージをしました。高齢の女性は「前にAED訓練で、力がなくて心臓マッサージができませんでした」と申し訳なさそうに話していました。

消防署員からは「大変な場合は近くの方や男性にお願いし、119番通報や交通整理をしましょう」とアドバイスがありました。

その後、北側のバス停のそばにあるスタンドパイプ(応急給水栓)の場所まで移動。4ℓの水を入れたボトルは重くて、背負わないとダメかも？と話しました。



▲スタンドパイプ

◀間仕切り



ドパイプがあります。

体育館には2m四方の間仕切りが設置されており、実際に中に入ってみました。段ボール製ではなく、布で仕切るタイプのものを購入したそうです。

みんなでつくる震災救援所

今回は今までよりリアルな訓練でした。そして、震災救援所は避難者も含めみんなで作っていくものなのだと実感しました。災害時にはボランティア協力して欲しいこと、可能な方は震災救援所の受付でその旨を申し出てください、とのことでした。消防署、消防団、町会や学校関係など、地域防災組織のみなさん、ありがとうございました。

物価高騰が区民生活を直撃 暮らしを守る対策の強化を！



【要望した項目の要旨】

※全文は区議団HPに掲載→



- ◆住民税非課税世帯などへの給付金の支給を継続・拡充し、お米券を低所得世帯、ひとり親世帯、子育て世帯に支給すること
- ◆冬季の暖房費増加に対応し、低所得層に電気、ガス、灯油代へ助成をすること
- ◆子育て世帯に、教材費、修学旅行費等の無償化を行うこと
- ◆家賃助成のさらなる対象拡大を図ること
- ◆商品券事業への支援の実施と、PayPay によるポイント還元事業を実施すること
- ◆中小企業に対して、電気代など光熱費の助成を行うこと
- ◆国民健康保険料の値上げを抑制すること

11月7日、党区議団は、「物価高騰から区民の命と暮らしを守る緊急対策を求める要望書」を岸本聡子区長に提出しました。

区民のくらしと営業を守るため区独自の支援を！

物価高騰が区民のくらしと営業を苦しめています。

東京都部の消費者物価指数は、毎月、前年同月比で上昇を続け、10月は2・8%の上昇。なかでも、主食の米（コシヒカリを除く）は38%の値上がりという深刻な状況です。10月の飲食料品の値上げは3000品目を突破し、「値上げの勢いは前年より強い」と分析されています。電気代や食料品のさらなる値上げも予想され、暮らしへの影響は一層深刻です。

全国世論調査（日本世論調査会）では、「物価高騰が生活の打撃になっている」との回答は93%、「食費の負担が重い」という回答が87%と、多くの世帯が生活苦を訴えています。

こうした事態を受け、党区議団は、区長に対し、物価抑制・消費税減税を国に求めるとともに、区民生活を守る緊急対策を講じるよう申し入れました。

既に他区では様々な支援策が

原田あきら都議事務所

弁護士による法律相談

毎週 水曜・金曜
14時～16時

会場 日本共産党杉並地区委員会
高円寺南3-30-12
電話 03-3314-5551
(予約不要、先着順に受付)



進んでおり、杉並区でも他区の事例を参考に対策を進めるよう要請しました。

また、年末年始は毎年、失業や収入減少によって住居を失う方も多いため、閉庁中の相談体制や宿泊が可能な施設の検討などについても要望しました。



要請を受ける岸本区長



とに。運動にも、時にはユーモアや思い切りが大事だと感じる場面もありました。そして、久しぶりの渋谷はすっかり景色が変わり、私はまるで浦島太郎のような状態になったのでした…笑

あきこの部屋

話題の映画「女性の休日」を観てきました。1975年、アイスランドの9割の女性が参加したという歴史的なストライキ。当時の参加者たちが次々に語る言葉は色褪せず、今を生きる私たちへの激励のメッセージです。

最初はこの行動に反対していた店主、船の中や地方の農場から連帯した女性たち、ラジオや新聞の報道などが映し出されます。悔しい妥協もあったけど、結果的には参加者の幅を広げるこ